

2 学期終業式

今日で2学期が終わります。そして令和4年も残り1週間です。昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症対策のために、制約がある中での学校生活でした。ただ、昨年までと違うのは、感染対策をしながらも、生徒の皆さんと先生方で知恵を出し合い、工夫して、行事などを実施してきたことです。

2学期の大きな行事としては、体育祭と合唱祭がありました。9月に行った体育祭は、2年ぶりに保護者の皆さまに見てもらうことができました。3年生を中心に例年に負けない、すばらしい体育祭になったと思います。

11月に実施した合唱祭、こちら各クラスとも、すばらしい歌声を響かせてくれました。審査にきて頂いた高校の先生からもたくさん褒めてもらいました。皆さんの「自律」の一端を見せてもらったと思います。

学期の終わりですので、一人一人の「自律」がどうだったかを振り返って欲しいと思います。自分自身をしっかりとコントロールができたでしょうか。反省すべきところを反省し、新しい年の目標を立ててください。

さて、終業式にあたり二つお話をします。

一つは、「磨心清掃」についてです。12月の全校朝会で「磨心清掃」のさらなるレベルアップについてお話をしました。実は私が思っている以上に「磨心清掃」はレベルアップをしているようです。ここでその例を一つ紹介します。

本校は、生徒の数も少ないので、職員室清掃の担当はいません。先生方もそれぞれの場所に行ってしまうので、清掃時間の職員室は教頭先生が一人で掃除をしています。一人でできることには限界がありますので、実は、皆さんが毎日掃除をしている廊下などに比べると、床が結構汚れていたのです。北校舎2階の廊下担当の3年生が、職員室の床の汚れに気づきました。そして「きれいにしたいので、職員室の床をやらせて欲しい」ということを申し出てくれたそうです。先週の清掃の時間、職員室の床を黙々ときれいにしている3年生の姿がありました。また、昨日の磨心大清掃、見て回りましたが、各学年とも本当によくやっていたと思います。「ややマンネリ化しているのではないか」と言った12月の全校朝会での私の発言は取り消します。実に質の高い活動になっていました。来年も全校で取組み、本校の特色の一つとして胸を張れる「磨心清掃」にしていければと思います。

二つ目は、「やる気」の話です。最近、脳科学者の池谷裕二先生、この方東京

大学の先生なのですが、「勉強脳の作り方」という本を読みました。脳科学の視点から効果的な勉強法について書かれています。なるほど、と思うことがたくさん書いてあって、あっという間に読んでしまいました。私がこの本の中で注目したのは、「やる気は、待つのではなく、自分から迎えに行く」というフレーズでした。「勉強しなきゃなんだけど、いつまでたってもやる気にならない・・・」ということはないですか。私はよくあります。この本によると「やる気」は脳の真ん中あたりにある「側座核」というところで作られます。この「側座核」は待っていても動き出さない、こちらから刺激をすることで、初めて動き出すそうです。4つの「やる気スイッチ」について書いてありました。時間の関係で、一つだけ紹介します。「スイッチB」、体を動かすことでスイッチが入る、まずは立ち上がって、机に向かってみましょう。これなら簡単にできそうですね。やる気が出ないから始めないのではなく、やる気を出すために動いてみましょう。とりあえず机に向かって始めるんです。そうすれば、だんだんとやる気が出てくると思います。この本、あとで学校の図書室においてもらいます。イラストも多くあって読みやすいので、興味のある人は借りてみてください。

最後は、皆さんへのお願いです。1学期の終業式でも同じお願いをしました。それは、「命を大切にしたい」ということです。ゲームの世界、ヴァーチャルな世界ならば、何度死んでもリセットすれば登場人物は生き返ります。でも、現実の世界では、死んでしまったら、二度と生き返ることはありません。

全校生徒の皆さんにお願いします。

自分の命を大切にしてください。

周りの人の命も大切にしてください。

自分自身を傷つけたり、周りの人を傷つけたりすることのないようにしてください。

交通事故にあわないようにしてください。

1月10日が3学期の始業式です。全員が元気に登校してくれることを願っています。

以上、2学期終業式の言葉とします。

校長 大澤 聡